

災害ケースマネジメントに関する地方公共団体及び関係民間団体向け説明会	
令和7年12月15日（月） / 山梨県甲府市	事例報告

熱海市伊豆山土石流災害時の被災者支援

熱海市社会福祉協議会

前川 美奈子

災害ケースマネジメントに関する地方公共団体及び関係民間団体向け説明会	
令和7年12月15日（月） / 山梨県甲府市	事例報告

本日お話しする内容

1. 令和3年7月伊豆山土石流災害発災時の状況
2. 熱海市伊豆山ささえ逢いセンターの実際
3. 熱海（伊豆山の）いま

1. 令和3年7月 伊豆山土石流災害発災時の状況

人口 34,973人 高齢者数 16,987人

高齢化率 48.6% (令和3年7月1日時点)

死亡28名（関連死1名含む）、中等症等3名

全壊世帯76世帯、大規模半壊5世帯、中規模半壊1世帯



避難所避難数 1日最大588名

市内のいくつかの大型
観光ホテルを避難所とし活用
避難所としては

7月4日～10月21日まで
最長110日間

1. 令和3年7月 伊豆山土石流災害発災時の状況

県・市町職員応援派遣：延べ1,759人（9月末まで）

DMAT派遣（災害派遣医療チーム）：延べ116人

県内保健師応援派遣：延べ302人



保健医療福祉合同調整本部
本部長：熱海健康福祉センター所長

DMAT

JMAT

DWAT

災害支援Ns

保健師チーム

JRAT

警察／消防

海上保安庁

自衛隊

静岡県健康増進課／熱海保健所

県内市町応援

1. 令和3年7月 伊豆山土石流災害発災時の状況

災害ボランティアセンター設置期間及び活動人数

設置期間 令和3年7月5日～令和4年6月30日

ニーズ受付件数 531件

活動日数 104日

延べ活動人数 1,564人

7月21日から8月末まで

(月)調整日 (火～日)活動日

9月～

毎日活動日

10月～

週末型 (金～日)活動日

令和4年1月～

希望日に合わせ活動

1. 令和3年7月 伊豆山土石流災害発災時の状況

ボランティア団体・企業との連携

企業	ボランティア団体	NPO
青年会議所 商工会議所青年部 株式会社マジオネット 熱海 宗教法人世界救世教いづのめ教団 MBS 静岡県立大学（プリンターその他） アカオ猫の手株式会社 Hubulic 中北薬品 他多数	民生委員児童委員 花の会 熱海市赤十字奉仕団 IRONWORKS きこりーず 厄年の会（同級生） 神輿会 自主防災会 災害ボランティアコーディネーター	OPENJAPAN DRT O B J（オペレーションブレッシングジャパン） シビックフォース P B V J V O A D しずおか茶の国会議 はままつ n a n e t

1. 令和3年7月 伊豆山土石流災害発災時の状況

地域の力を結集（企業や青年会議所・商工会議所など）

- 弁当配布（地域のスーパー）
- ボランティアの移送
- バス手配（地域ドライバースクール）
- 警戒区域周辺の夜警（消防団）



七尾地区の皆さまへ



無料臨時バスのご案内 (七尾団地⇄湯河原)

伊豆山地区の災害支援の一環として、七尾団地～湯河原間の無料臨時バスを運行します。

運行期間: 7月23日(金)～24日(土)、7月26日(月)～31日(土)

<時刻表> 午前

湯河原方面行き	七尾団地	9:30	七尾方面行き	エスポット	11:00
	団地中央	9:31		湯河原店	
	公民館前	9:32		マックスバリュ	11:10
	エスポット			湯河原店	
	湯河原店	10:00		湯河原駅	11:13
	マックスバリュ			小田原百貨店	11:15
	湯河原店	10:10		湯河原店	
	湯河原駅	10:13		Aコープ	11:20
	小田原百貨店			ゆがわら店	
	湯河原店	10:15		公民館前	11:58
	Aコープ			団地中央	11:59
	ゆがわら店	10:20		七尾団地	12:00

※交通状況等により、ダイヤの乱れが生じる場合がございますので、予めご了承ください。

【バスの運行に関するお問合せ先】
ニコーバス TEL: 0557-85-2525

本バスは、公益社団法人Civic Forceがニコーバス（株ニコー）の協力のもと、運行します。

【本支援に関するお問合せ先】

公益社団法人Civic Force（シビックフォース）

T 151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル2階 熱海支援担当: TEL: 070-1217-7707

1. 令和3年7月 伊豆山土石流災害発災時の状況

自治体の地域防災計画には救護所や避難所設置に関しては位置付けられている一方で、支え合いセンターを設置する基準や体制について計画している自治体は殆どない。熱海市では災害時被災者支援マニュアルを作成していたが、そのなかにも支え合いセンターは明記されていなかった。

【被災自治体の選択肢】

1. 社会福祉協議会・NPO等へ委託し支え合いセンターを設置
2. 自治体が直営で支え合いセンターを設置
3. センターを設置せず通常業務の延長で被災者支援を実施

2. 熱海市伊豆山ささえ逢いセンターの実際

被災者の生活支援

公営住宅

みなし仮説

在宅避難

市生活支援・地域支え合いセンター（熱海市社協）

◆生活支援相談員・市保健師による見守り・相談支援等

- ・現況等の調査及び個別支援計画の作成
- ・見守り、巡回訪問
- ・専門相談機関等へのつなぎ 他

被災者情報の共有

熱海市

県生活支援・地域支え合いセンター（県社協）

◆アドバイザーによる熱海市社協への支援

- ・後方支援・アドバイザーの派遣・研修会開催 他

専門機関との連携
精神保健福祉センター

神奈川県との連携

静岡県

2. 熱海市伊豆山ささえ逢いセンターの実際

【体 制】 センター長 熱海市社協
副センター長 市長寿支援室（前川）
コーディネータ 県社協
社協職員2名
生活支援相談員（6名）

相談員6名の職種

看護師、介護支援専門員、元社協職員、民生委員
社会福祉士

4名は1回/週の勤務、1名が2回/週、1名が3回/週の勤務
常勤換算にすると1.2人配置

センターを委託していた期間、相談員の離職無し。

2. 熱海市伊豆山ささえ逢いセンターの実際

【特徴】

熱海市は当センターを熱海市社会福祉協議会への委託（現在は市直営にて実施中）。受託の期間中センターの運営を市と社協の協働運営という形を継続。

市の健康増進部門・福祉部門の保健師をローテーション（1週間）でセンター勤務とし、相談員と共に訪問等の被災者支援を実施。朝礼・夕礼、カンファレンスにも参加。

2. 熱海市伊豆山ささえ逢いセンターの実際

ささえ逢いセンターのある1日

9時 朝礼 相談員 保健師 センター長

副センター長、社協職員

10時 訪問 相談員と保健師（市外仮設住宅）

13時 訪問 相談員、社協職員（市内仮設住宅）

15時 記録作成（相談員）

16時 記録作成→電話かけ（相談員）

17時 夕礼 相談員 保健師 センター長

副センター長、社協職員

2. 熱海市伊豆山ささえ逢いセンターの実際

朝礼・夕礼のミーティング風景



2. 熱海市伊豆山ささえ逢いセンターの実際

複雑化する悩み

相反する思い

また災害があったら怖い
伊豆山には帰りたい
仲の良かった地域の人は帰らないと言っている
家族は気持ちがバラバラ

経済的な課題

決めることの多さ



個別支援

繰り返し訪問

世帯員それぞれの気持ちを傾聴

ケースカンファレンス



多機関協働

地域の町内会や民生委員、保健所等支援機関に相談

みなし仮設の担当課に現状を相談

弁護士会との支援協議

居場所・地域づくり



熱海市伊豆山ささえ逢いセンターの実際【被災世帯の分類】

被災者見守り区分

見守り区分		判断の目安
A	重点見守り	1か月に1回以上の訪問支援が必要
B	通常見守り	2～3か月に1回の訪問支援が必要
C	不定期見守り	生活支援相談員による不定期な関わりは必要
D	必要なし	生活支援相談員による関わりは特段必要ない

被災者生活再建区分

再建支援区分		判断の目安	旧	新
1	新・旧困難世帯	今後の住まいの方針も決まらず、更に旧住家の悩みも同時に抱えている	×	×
2	旧住家再建可能世帯	旧住家に悩みはないが、今後の住まいに悩みを抱えている	○	×
3	新住家再建可能世帯	今後の住まいの方針は決まっているが、旧住家に悩みを抱えている	×	○
4	生活再建可能世帯	今後の住まいの方針が決まっており、更に旧住家に対する悩みもない	○	○

2. 熱海市伊豆山ささえ逢いセンターの実際

支援計画書	氏 名	判定 B
-------	-----	------

作成日	作成者	課題	目標	対応
2022.4.12	鈴木	収入が減少し生活が 苦しい	2年まではみなし仮説 で生活し年金を貯蓄	傾聴 家賃分補填で困難な場 合は保険など見直し
2022.4.12	鈴木	・ 高血圧、膝痛、 ペースメーカーなど体 調不良あり ・ 物忘れの増加	〇〇さんなりに快適に 生活することがきる 夫婦での生活が維持で きる	訪問看護にて血圧 チェックと情報共有 通院状況の確認 包括支援センター訪問
2022.8.30	鈴木	転居先での孤立感を 訴えている	地域でのコミュニティ の形成	民生委員さんへのつな ぎ 同じ地域の避難者との 連絡
2022.8.30	鈴木	離れて暮らす家族と の意見の相違	兄弟と話をすることが できる	傾聴 訪問時家族との関係に ついて聞くなど

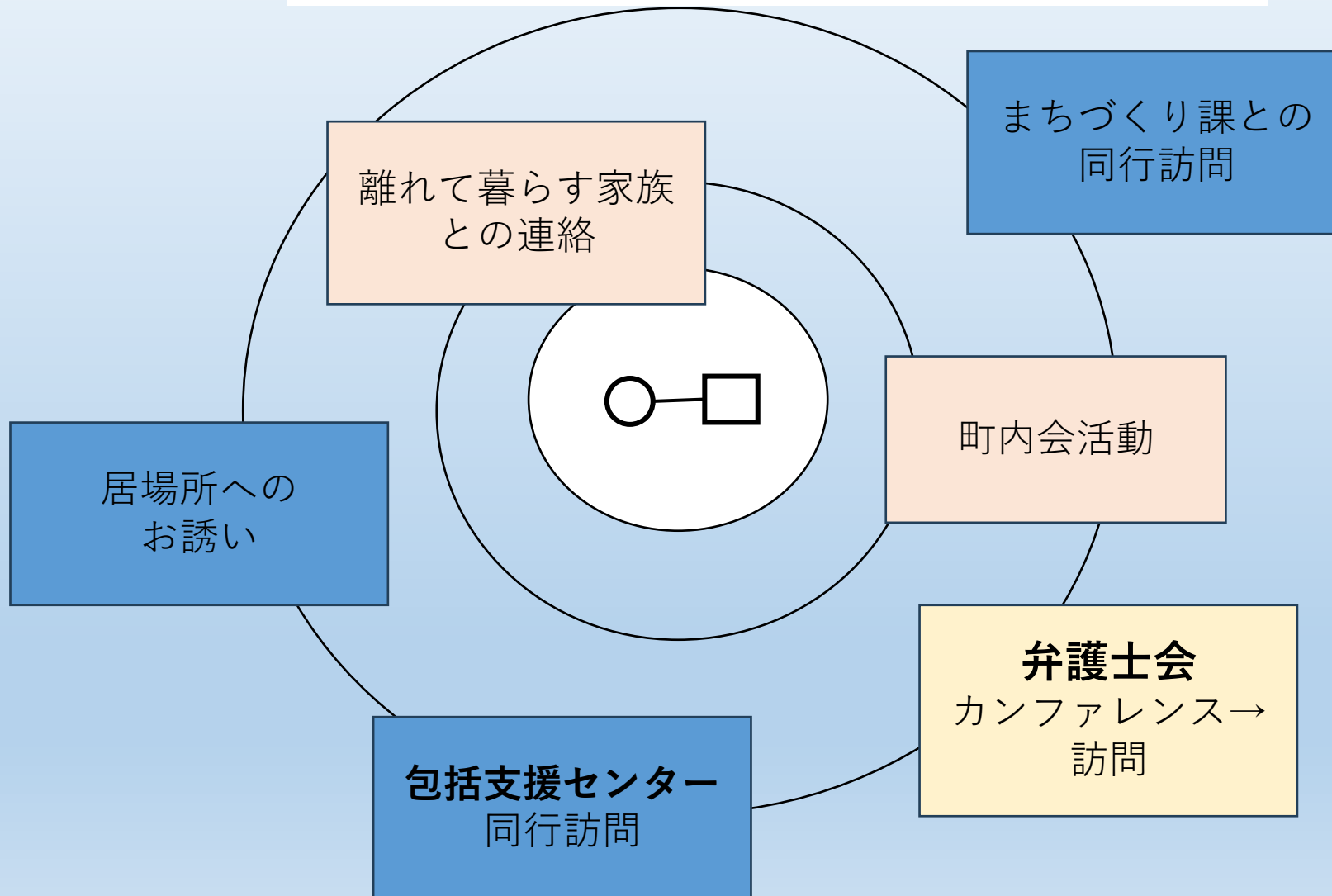
2. 熱海市伊豆山ささえ逢いセンターの実際

エコマップの作成



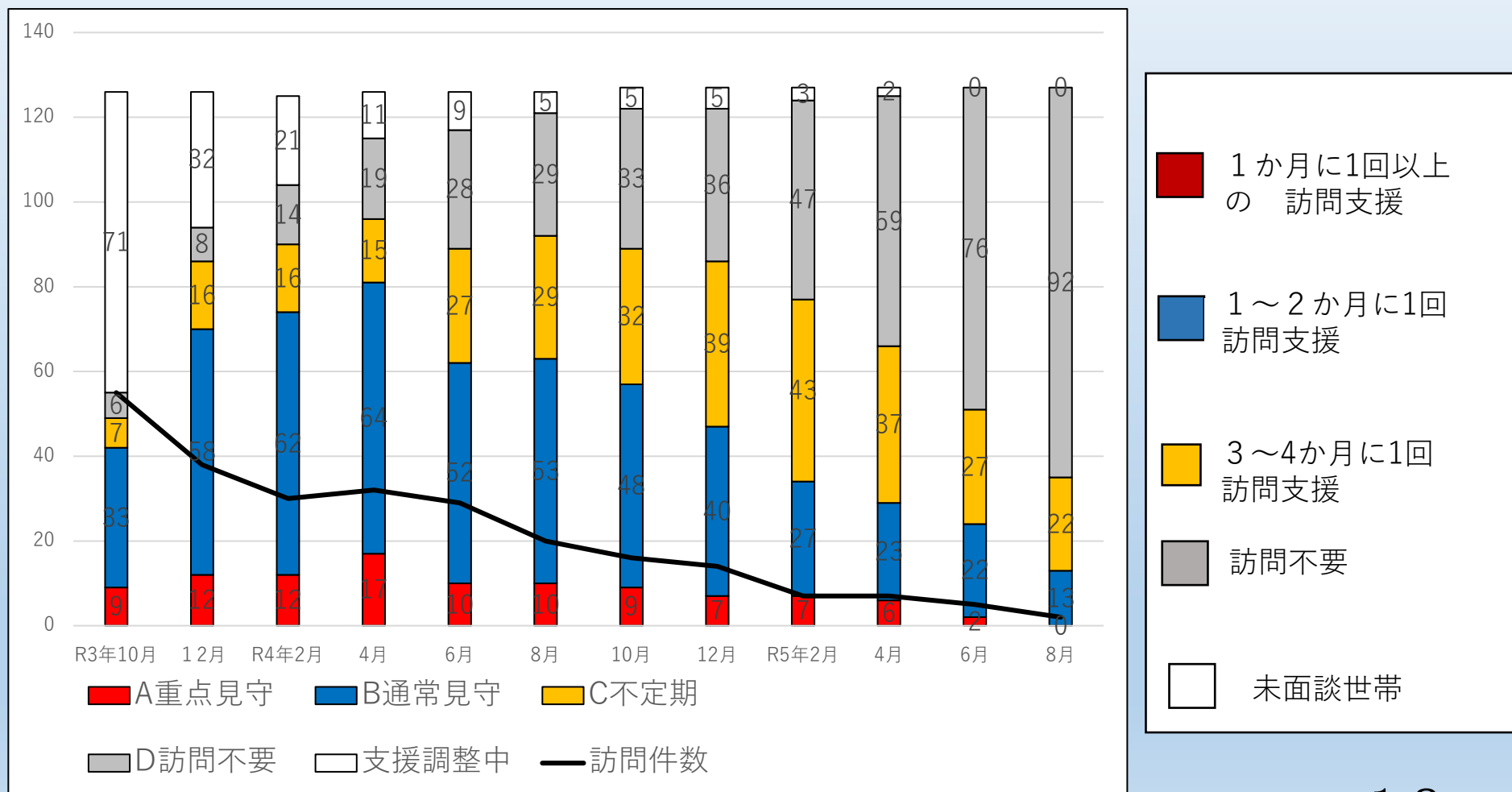
2. 熱海市伊豆山ささえ逢いセンターの実際

ある世帯の支援の実際：高齢夫婦（自宅全壊）



熱海市伊豆山ささえ逢いセンター見守り区分・訪問件数の推移

見守り区分の推移（対象世帯127世帯）



3. 熱海（伊豆山の）いま

【健康・医療】

【住宅・経済】

平時の施策

被災者支援事業

ささえ逢い
センター

被災世帯

保健師による健康相談・訪問等支援

生活保護制度
生活困窮者自立相談支援
被災者生活再建支援金
義援金 災害弔慰金
税減免
水道・下水減免
みなし仮設住宅（県民間）
特例市営住宅
公費解体
日常生活自立支援
生活福祉資金貸付
中小企業融資
市営・県営住宅

保健所
精神保健センター
保健所
後期・国保税減免
国保税減免
後期・国保保険

介護保険料減免
介護保険他各種制度
介護保険利用料減免
ケアマネジャーによる支援
必要の制度の案内
支援機関へのつなぎ

必要な制度の案内
町内会や民生委員へのつなぎ
弁護士等専門機関へのつなぎ
交流会の開催
弁護士等士業相談
市民相談
弁護士相談
民生委員

災害ボランティア

NPO他

カーシェアリング

有償ボランティアこつこつ

地域活動団体

子ども食堂

地域サロン

市民相談
弁護士相談
民生委員

【介護・福祉】

【地域・その他】

3. 熱海（伊豆山の）いま

令和4年4月 被災地の居場所「いずさんっち」開設

令和5年9月 警戒区域解除、最初の被災者が帰還

令和6年3月末 県ささえあいセンター閉鎖

令和6年4月 熱海市ささえ逢いセンター縮小

令和7年4月 ささえ逢いセンター委託終了（直営となる）

現在も避難生活をされている世帯は 20 世帯 42人

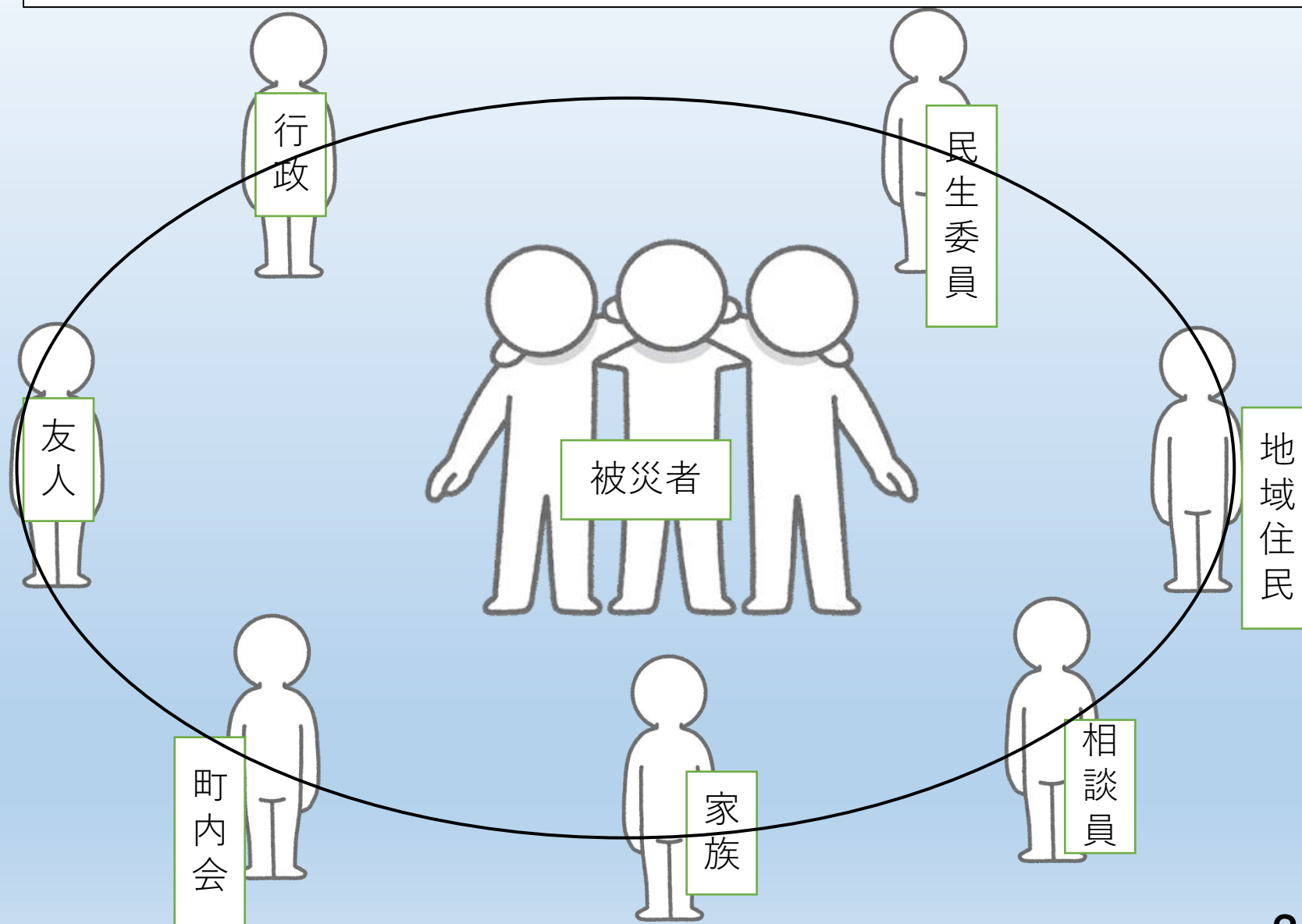
その他世帯は生活再建が終了している。

3. 熱海（伊豆山の）いま

被災地の居場所「いずさんっち」にて、月に1回、地域住民主催のサロンが開催されています。



3. 熱海（伊豆山）のいま



3. 熱海（伊豆山）のいま



ご清聴ありがとうございました

